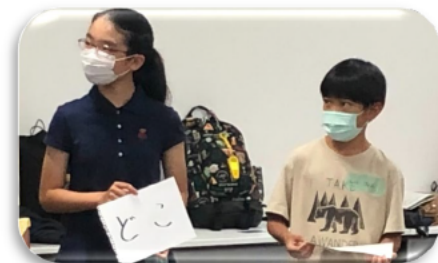


## 令和4年度こども霞が関見学デー 「おはなしをつくって、あそんで、つながろう！」

内閣官房孤独・孤立対策担当室は、夏休み期間中のこどもたちに当室の仕事を紹介するとともに、あそびや寂しい体験の発表を通じて、人とのつながりの大切さを考えていただくため、「こども霞が関見学デー」を8月4日に開催し、小学生を中心に20名の皆さんに参加していただきました。

- 当日は、(一社)プレイキッズシアターの村松さんに全面的にご協力をいただき、「人とつながるってどんな感じ？あそびとおはなしづくりを通して、周りの人とつながってみよう！」をテーマに、こどもたちが主体となった様々なワークを行いました。
- まずは、制限時間内に同じ食べ物が好きな仲間を見つけるゲームや、4人グループで「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」というテーマからおはなし作りを行いました。初対面の緊張がほぐれた参加者は、限られた時間でしたが、自発的に動けば他の人とつながることを学び、人とつながる面白さを体感しました。
- そして、高学年グループと低学年グループに分かれ、「ひとりぼっちで寂しいとき」、「そのとき、どうしたら気持ちが軽くなるだろう」というテーマについて考え、一人ずつ発表しました。
- 参加者は「友達からメールがかえってこなかったとき」、「お母さんの相づちがいい加減なとき」などに寂しさを感じながら、「公園に散歩に行って友だちを探す」、「好きな漫画を読む」、「おいしいものを食べる」といったことで気分転換を図っていました。参加者が孤独の問題を自分ごととしてとらえ、それぞれで工夫していることが伺えました。



### 【協力団体】 (一社)プレイキッズシアター 代表理事 むらまつひろこ

表現教育をベースとしたコミュニティアート・舞台創作を提供。教育委員会・自治体とも連携し、こどもたちの文化体験活動を行っている。(プレイキッズシアター ホームページ: <https://www.playkidstheater.jp/>)

### むらまつさんのコメント

誰にも言えない「ひとりぼっち」を感じる時が、こどもにもあるのです。こども表現教育のアプローチを用い、気持ちを伝え、共感し、多様性を受け入れることによって「人とつながる面白さ」を体験する中で、こども達は心をひらき、自分の気持ちを伝えられるようになります。その姿は大人にも影響します。今回の孤独・孤立対策担当室の取組みが、人とのつながりを楽しめる社会の土台となることを願っています。

